

カーFMステレオ トランスミッター

取扱説明書・保証書

お買い上げいただきありがとうございます。

警告 電気製品は安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。

この取扱説明書をよくお読みのうえ、製品を安全にお使いください。お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

DCC-FMT50U

© 2006 Sony Corporation Printed in China



安全のために

ソニー製品は安全に充分配慮して設計されています。しかし、電気製品はすべて、まちがった使いかたをすると、火災や感電などにより人身事故になることがあり危険です。事故を防ぐために次のことを必ずお守りください。

安全のための注意事項を守る

この取扱説明書の注意事項をよくお読みください。

定期的に点検する

1年に1度は、本体が傷んでいないか、本機とシガレットライターソケットの間にほこりがたまっていないか、配線したケーブル類がからまっていないか、などを点検してください。

故障したら使わない

動作がおかしくなったり、本体やケーブル類が破損しているのに気づいたら、すぐにお買い上げ店またはソニーサービス窓口に修理をご依頼ください。

万一、異常が起きたら

変な音・においがしたら、煙が出たら

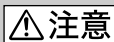


警告表示の意味

取扱説明書では、次のような表示をしています。表示の内容をよく理解してから本文をお読みください。



この表示の注意事項を守らないと、火災・感電などにより死亡や大けがなど人身事故の原因となります。



この表示の注意事項を守らないと、感電やその他の事故によりけがをしたり自動車に損害を与えたりすることがあります。

注意を促す記号



火災

感電

行為を禁止する記号



禁止

分解禁止



下記の注意事項を守らないと、**火災・感電**により**死亡や大けが**の原因となります。



火災

感電

道路交通法に従って安全運転する

運転者は道路交通法に従う義務があります。前方注意をおこたるなど、安全運転に反する行為は違法であり、事故やけがの原因となります。

- 運転中は絶対に本機や接続機器を接続・設置したり操作したりしない。
- 運転中に本機および接続機器の画面を注視しない。
- 車外の音が聞こえる程度の音量で聞く。

運転操作や車体の可動部、エアバッグシステムの動作を妨げる場所には設置しない

事故や感電、火災、けがの原因となります。

- ネジやシートレールなどの可動部にケーブル類をはさみ込まない。
- ケーブル類はまとめる。
- ステアリングやシフトレバー、ブレーキペダルなどが正しく操作できることを確認する。

雨、水がかかる場所、湿気、ほこりの多い場所には取り付けない

上記のような場所に取り付けると、火災や感電の原因となります。

分解や改造をしない

火災や感電、事故の原因となります。

本機内部の点検や修理はお買い上げ店またはソニーサービス窓口にご依頼ください。



分解禁止

内部に水や異物を落とさない

水や異物が入ると火災や感電の原因となります。万一、水や異物が入ったときは、すぐに電源を切り、お買い上げ店またはソニーサービス窓口にご相談ください。シガレットライターソケット内に異物が入っていると危険ですので注意してください。



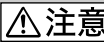
禁止

本機は対応機種以外では使わない

火災やけがの原因となることがあります。



禁止



下記の注意を守らないと**けが**をしたり**自動車に損害**を与えたりすることがあります。

安定した場所に取り付ける

振動の多いところや、天井などに取り付けると、製品が動く、落ちるなどにより、事故やけがの原因となることがあります。



禁止

規定容量のヒューズを使う

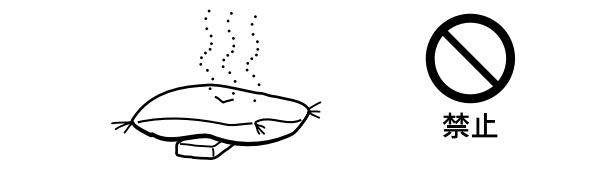
ヒューズを交換する時は、必ずヒューズに記された規定容量のアンペア数のものをお使いください。規定容量を超えるヒューズを使うと、火災の原因となります。



禁止

本体を座布団などでおおった状態で使わない

熱がこもってケースが変形したり、火災の原因となることがあります。



通電中の本機や製品に長時間ふれない

長時間皮膚がふれたままになっていると、低温やけどの原因となることがあります。



禁止

主な特長

本機（カーFMステレオトランスミッター）は、HDD/フラッシュメモリー/MD/CDウォークマンなどのポータブルオーディオ機器の再生音を、カーステレオ（カーFMラジオ）へFM電波で送信します。このFM電波をカーFMラジオで受信することにより、ポータブルオーディオ機器の再生音を車の中でも楽しめます。

USB給電機能搭載

USB充電対応ポータブルオーディオ機器*に電源供給できます。車内でポータブルオーディオ機器のバッテリー寿命を気にせずお使いいただけます。

* USB充電に対応した機器でも、本機が使用できないことがあります。対応機種情報は、最新のカatalogやホームページでご確認ください。

安定したクリアな音を実現

- フレキシブル送信アンテナを採用することにより、車種を限定せず、安定したFM電波送信を実現します。
- 送信周波数選択回路にデジタル方式を採用することにより、アナログ方式で起こる送信周波数のズレを防止します。

全FM放送帯域（76.0～90.0MHz）から周波数選択が可能
FM放送の全帯域（76.0～90.0MHz）から送信周波数を選べます。また、送信周波数を0.1MHzステップで選べるので、地域を限定せず、空き（放送のない）周波数を探し出せます。

4つのダイレクトメモリーボタン搭載

頻繁に使用する周波数を4つまでメモリーしておき、ワンタッチで選択可能です。

バックライト付き周波数表示ディスプレイ採用

周波数表示ディスプレイに暗い車内でも見やすいバックライト付きディスプレイを採用しています。

周波数表示ディスプレイの角度調節が可能

車内環境に合わせて、周波数表示ディスプレイを見やすく設置できる角度調節構造を採用しました。

多くの車種に設置可能なスマートフォルムを実現

本体ヘッド部の小型化に加え、シガレットライターソケットの周りの障害物を避けて設置できるスマートフォルムを実現しました。

電池不要

- シガレットライター（カーバッテリー）を電源として使用します。
- 12Vと24Vのカーバッテリーに対応しているので、普通自動車から大型車まで幅広い車種で使用することができます。（12/24V自動切換、マイナスアース車専用）

“ウォークマン”、“WALKMAN”はヘッドホンステレオ商品を表わすソニー株式会社の登録商標です。

使用上のご注意

安全について

- 接続や、本機やカーラジオ、ポータブルオーディオ機器などの操作は、運転中や停車中ではなく安全な場所に駐車してから行ってください。
- 車の種類によっては、エンジンを切ってもシガレットライターソケットの電源が切れない場合があります。エンジンを切ったままで使用すると、車のバッテリーを消耗させてしまいますので、エンジンを切った時には、必ず本機をシガレットライターソケットから抜いておいてください。
- 本機を使用しないときは、運転操作や可動部の妨げにならないように保管してください。シガレットライターソケットから抜くときは本機を持って抜いてください。
- 本機内部に水や異物が入ったときは、本機をシガレットライターソケットや接続機器から抜き、お買い上げ店またはソニーサービス窓口にご相談ください。

設置について

- 使用中、保管中にかかわらず、次のような場所に置かないでください。故障の原因になります。
 - 異常に高温になる場所
 - 炎天下や夏場の窓を閉め切った自動車内は特に高温になり、放置すると変形したり、故障したりすることがあります。
 - 直射日光の当たる場所、熱器具の近く
 - 変形したり、故障したりすることがあります。
 - 激しい振動のある場所
 - ほこりの多い場所
- 車が急ブレーキをかけた際に、本機に接続したポータブルオーディオ機器が動かないようにしっかりと固定してください。

使用について

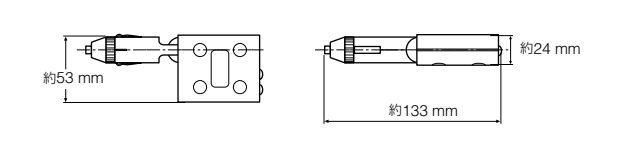
- ケーブル類を強く引っ張らないでください。断線、故障の原因になります。
- 強い衝撃を与えたり、落としたりしないでください。
- 本機は使用中に温かくなることがありますが故障ではありません。
- 使用後は必ず本機をシガレットライターソケットから抜いておいてください。

充電について

- 本機を使用する前には、必ず接続する機器の定格電圧、定格電流を確認の上ご使用ください。
- 本機の使用状態によって、定格電流より過大な電流が流れた場合は、安全の為に本機の出力電圧が一時的に途切れ、使用されている機器の電源が切れる場合があります。
- 本機の接点部に他の金属類が触れないようにしてください。ショートすることがあります。
- 本機をシガレットライターソケットに挿入した状態で、車のエンジンをかけたり止めたりすると、本機に接続したポータブルオーディオ機器のメモリーデータが破損、消失する場合がありますので、充分にご注意ください。

主な仕様

送信方式	マルチプレックス ステレオ方式
送信周波数	76 MHz～90 MHz（0.1MHzステップ）
電界強度	500 uV/m 以下（3 m）
電源電圧	DC 12/24 V（マイナスアース車専用）
入力端子	ø 3.5 mmステレオミニプラグ
定格出力電圧	DC 5.0 V
定格出力電流	500 mA
最大外形寸法	



信号ケーブルの長さ	約 1 m
アンテナケーブルの長さ	約 3 m
質量	約 75 g（ケーブル含まず）
付属品	取扱説明書・保証書（1）

本機の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。ご了承ください。

保証書とアフターサービス

保証書

- 所定事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保存してください。
- 保証期間は、お買い上げ日より1年間です。

アフターサービス

調子が悪いときはまずチェックを

この説明書をもう一度ご覧になってお調べください。

それでも具合の悪いときは

お買い上げ店またはお近くのソニーサービス窓口にご相談ください。

保証期間中の修理は

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間経過後の修理は

修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料修理させていただきます。

部品の保有期間について

当社では本機の補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）を、製造打ち切り後6年間保有しています。この部品保有期間を修理可能期間とさせていただきます。保有期間が経過したあとも、故障箇所によっては修理可能な場合がありますので、お買い上げ店またはソニーサービス窓口にご相談ください。

- <http://www.sony.co.jp/SonyDrive/>

お客様ご相談センター

- ナビダイヤル …………… ☎0570-00-3311

（全国どこからでも市内通話料でご利用いただけます）

- 携帯電話・PHSでのご利用は 03-5448-3311

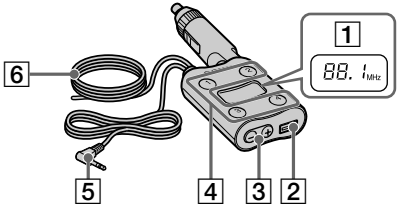
（ナビダイヤルがご利用できない場合はこちらをご利用ください）

- FAX…………… 0466-31-2595

受付時間：月～金 9:00～20:00 土・日・祝日 9:00～17:00
お電話は自動音声応答にてお受けしています。

ソニー株式会社 〒108-0075 東京都港区港南1-7-1

各部の名称



- 1 周波数表示窓
- 2 USB端子
- 3 周波数+/-ボタン
- 4 メモリーボタン
- 5 ステレオミニプラグ
- 6 アンテナケーブル

使いかた

本機を設置するときは、必ずエンジンがかかった状態で行ってください。エンジンを切ったままで使用すると、車のバッテリーを消耗させてしまう場合があります。運転中や信号で停車しているときなどには、接続や、本機やカーラジオ、ポータブルオーディオ機器などの操作は行わないでください。安全な場所に駐車してから行ってください。


- ご注意**
- 本機を設置するときは、アクセルやシフトレバーを誤操作しないよう周囲の安全に配慮してから行ってください。
 - 運転中の操作は危険なので、接続や操作は、必ず運転する前に、停車状態で行ってください。
 - カーラジオやカーラジオアンテナ、接続した機器について詳しくは、それぞれの機器に付属の取扱説明書をご覧ください。

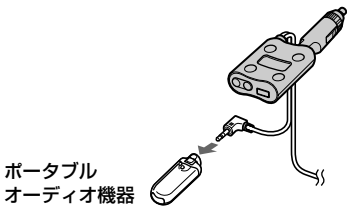
カーラジオを設定する

- カーラジオをFM放送が受信できるような状態にする。
- 76 MHz～90 MHzの中から放送を受信していない周波数を選ぶ。
別の地域に移動した場合、選んだFM周波数で放送を受信してしまうことがあります。このような場合は、放送を受信していないFM周波数を再度お選びください。

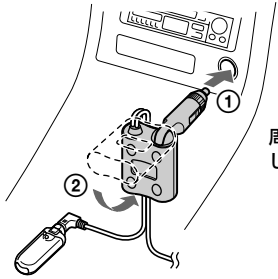
- ご注意**
- カーラジオの音量は、なるべく小さい音量に設定しておいてください。

本機を設定する

- ステレオミニプラグをポータブルオーディオ機器のヘッドホン（）端子に差し込む。
ヘッドホン端子がLINE OUT（ライン出力）端子を兼用している機器に接続した場合は、接続機器の出力をヘッドホン出力に設定してください。LINE OUT端子に接続した場合、本機への音声入力が大きすぎるため音がひずみます。



- 車のシガレットライターソケットに本機を差し込む。
(①)
表示窓のバックライトが点灯し、周波数表示が出ます。



周波数が表示されるまで、しっかりと奥まで差し込む。

- 周波数+/-ボタンを繰り返し押して、カーラジオで設定した周波数を選ぶ。
押すたびに、周波数が76 MHz～90 MHz の間で0.1 MHzずつ変わります。

- ヒント**
- 周波数表示がよく見えるように本体の角度を調節できます。（手順2のイラスト②）
 - 周波数+/-ボタンを押したままにすると、周波数が早く変わります。
 - 電源を入れたときは、前回使用したときの周波数が自動的に選択されます。

4 接続したポータブルオーディオ機器を再生する。

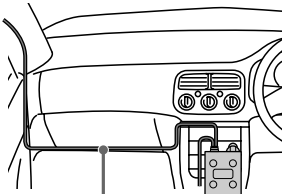
- ご注意**
- 接続したポータブルオーディオ機器のバスブーストやイコライザーの調節の機能は解除（動作しないように）しておいてください。音がひずむ場合があります。
 - 接続したポータブルオーディオ機器のボリュームを音がひずまない範囲でなるべく大きくしてください。それでも音量が小さい場合は、カーラジオのボリュームで調整してください。

5 カーラジオでの受信状態が良くなるように、本機のアンテナケーブルを車内に設置する。

ご使用になる車種によって、車内でのアンテナケーブルの設置方法（取り付けかた）は異なります。以下のイラスト例を参考に、受信状態が最良となるよう試してから、設置してください。

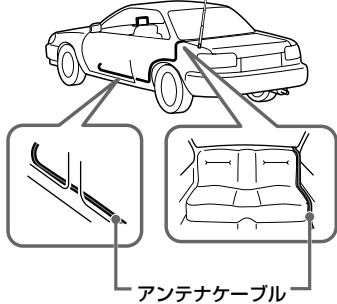
- ご注意**
- 受信状態が悪い場合は、アンテナケーブルを車のアンテナ近くになるように設置すると受信が良くなる場合があります。
 - 車のアンテナ位置は車の取扱説明書をご覧ください。

車のアンテナが車両の前方にある場合の一例



アンテナケーブル

車のアンテナが車両の後方にある場合の一例



アンテナケーブル

2つのイラストは、一例でありご使用になる車の状況により送受信状態が変わります。最良の受信状態になるようアンテナケーブルを設置してください。

本機からの受信状態が悪くなったときは

最初に設定した周波数では受信状態が良好であったにもかかわらず、走行中に受信状態が悪くなったときは、次のように考えられます。状況に応じた対処を行ってください。

設定を終えた後、走行し始めたら受信状態が悪くなった

→ 地下駐車場やビルの影など、カーFMラジオでFM放送を受信にくい場所があります。そのような場所でカーFMラジオと本機の設定をしたため、走行中にFM放送の受信状態がよくなり、設定した周波数がFM放送の影響を受けて、本機からの受信状態が悪くなったと考えられます。このような場合は、FM放送の受信状態がよい場所で、再度、FM放送を受信していない周波数を選び、カーFMラジオと本機を設定してください。

車で移動するに従って受信感度が悪くなった

→ FM放送は地域によって受信する周波数が異なります。移動した地域で、本機に設定した周波数でFM放送を受信できる場合は、その放送の影響を受けて、本機からの受信状態が悪くなる場合があります。このような場合は、移動した地域で、再度、FM放送を受信していないFM周波数を選び、カーFMラジオと本機を設定してください。

ときどき音が途切れたり、ノイズが入ったりして聞きづらくなった
→ 都心部や市街地では、FM放送局やミニFM放送局、アマチュア無線などの影響を受けて、本機からの受信状態が悪くなり、音が途切れたりノイズが入ったりする場合があります。このような場合は、再度、影響の少ないFM周波数を選び、カーFMラジオと本機を設定してください。

選んだ周波数を記憶させるには

工場出荷時は、メモリーボタンの周波数は76 MHzに設定されています。手順3で周波数を選んでから、周波数表示窓にメモリーボタン番号が表示されるまで記憶させたいメモリーボタンを押したままにします。周波数を記憶させておけば、メモリーボタンを押すだけで周波数を選べます。

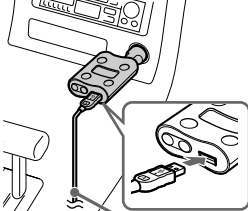
ご注意

選んだメモリーボタンにすでに別の周波数が記憶されていたときは、新たに選んだ周波数が記憶されます。

充電する

充電中には再生できない機器もあります。詳しくは、お使いの機器に付属の取扱説明書をご覧ください。

- USB充電に対応したポータブルオーディオ機器（ネットワークウォークマンなど）に付属の専用USBケーブルを使い、本機とポータブルオーディオ機器を接続する。
接続した機器は、安全な場所に置いてください。



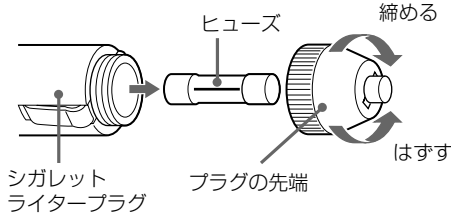
ポータブルオーディオ機器に付属のUSBケーブル

- ポータブルオーディオ機器側で充電に必要な操作を行う。
対応機種によっては、充電をするための操作が必要のない機種もあります。詳しくは、ポータブルオーディオ機器に付属の取扱説明書をご覧ください。
- 充電が終了したら、ポータブルオーディオ機器を本機からはずす。

- ご注意**
- シガレットライターソケットへの接続はしっかりと確実に行ってください。
 - シガレットライターソケットの位置・形状によっては本機が使用できない場合があります。
 - 車が急ブレーキをかけた際に、本機に接続したポータブルオーディオ機器が動かないようしっかりと固定してください。
 - ケーブル類は以下の点に注意して正しく設置してください。
 - 運転操作や可動部の妨げになる取り付けをしない。
 - 幼児の手の届かないように設置する。
 - エアバックシステムの動作を妨げる取り付けをしないでください。
 - 本機につないだUSBケーブルを強く引っ張らないでください。故障、断線の原因となることがあります。
 - 火災、感電を避けるため、本機を液体や湿気のある場所で使わないでください。
 - USBハブやUSB延長ケーブルをご使用の場合の動作保証はいたしかねます。必ず、ポータブルオーディオ機器（ネットワークウォークマンなど）に付属の専用USBケーブルなど、ポータブルオーディオ機器側の指定する接続方法に従ってください。

ヒューズの交換

本機が正常に動作しない場合は、シガレットライタープラグ内部のヒューズが切れているかを確認してください。



- シガレットライターソケットから本機を抜く。
- プラグの先端部分を回してはずす。
- ヒューズを取り出す。
- ヒューズが切れていないか確認する。
切れている場合は、手順5へ
切れていない場合は、手順6へ
- 新しいヒューズを用意する。
市販の同じ定格のヒューズ（1 A 125 V、長さ約20 mm）をお求めください。
- ヒューズを差し込む。
- プラグの先端を元通りにしっかり締める。

- ご注意**
- 定格の異なるヒューズをご使用になると故障や火災の原因になります。
 - ヒューズを針金などで代用しないでください。
 - ヒューズを交換したあとも、再び切れるような場合には、お買い上げ店にご相談ください。

故障かな？と思ったら

症状	原因／処置
ポータブルオーディオ機器の音がカーラジオから聞こえない	<ul style="list-style-type: none">本機がシガレットライターソケットやポータブルオーディオ機器へ正しく接続されていない → 正しく接続する。本機で選んだ送信周波数とカーFMラジオの周波数が一致していない → 本機の送信周波数とカーFMラジオの周波数を一致させ、送受信可能な状態にする。接続したポータブルオーディオ機器からの音が出ていない → ポータブルオーディオ機器を再生状態にする。 → 音がひずまない範囲でポータブルオーディオ機器の音量を上げる。
音が小さい	<ul style="list-style-type: none">接続したポータブルオーディオ機器の音量が小さい → 音がひずまない範囲でポータブルオーディオ機器の音量を上げる。 それでも音が小さい場合は、カーFMラジオの音量を上げる。
音がひずむ	<ul style="list-style-type: none">本機への音声入力信号が大きすぎる → ポータブルオーディオ機器のLINE OUT（ライン出力）端子に接続している場合は、ヘッドホン端子に接続する。接続したポータブルオーディオ機器のバスブースト機能を使用している → ポータブルオーディオ機器のバスブースト機能を解除する。
雑音が入る	<ul style="list-style-type: none">本機で選んだ送信周波数とカーFMラジオの周波数が一致していない → 本機の送信周波数とカーFMラジオの周波数を一致させ、送受信可能な状態にする。カーFMラジオの受信状態が悪い → カーFMラジオでの受信状態が良くなるように本機アンテナケーブルを車内に設置する。（車のアンテナの近くになるように設置すると受信状態が良くなる場合があります。）選んだ周波数が放送に使用されている → 放送を受信していない（「サー」という音しか聞こえない）周波数を選ぶ。別の用途や妨害電波の影響を受けている → 別の用途で使用していない、または妨害電波の影響の少ない（「サー」という音しか聞こえない）周波数を選ぶ。
音が途切れる	<ul style="list-style-type: none">市街地などで妨害電波の影響を強く受けている → 妨害電波の影響の少ない（「サー」という音しか聞こえない）周波数を選ぶ。
周波数表示窓のバックライトが点灯しない	<ul style="list-style-type: none">本機がシガレットライターソケットへ正しく接続されていない → 正しく接続する。エンジンをかけないと通電状態にならない車種である → エンジンをかける。ヒューズが切れている → ヒューズを交換する。